

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 21 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520597

研究課題名（和文） 軍神の歴史図像学的研究

研究課題名（英文） Historical iconology of War Gods

研究代表者

黒田 智（KURODA SATOSHI）

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：70468875

研究成果の概要（和文）：

本研究は、中近世日本における軍神（いさがみ）信仰とその図像をめぐる歴史図像学的研究である。

13 世紀に誕生した和製の地蔵菩薩＝勝軍地蔵は、日本独自の国家・国土観念を背景に、中世武家政権から庶民にまで広く信仰され、その後の近代戦争や国民国家の成立・展開にも少なからぬ影響を与えた軍神であった。本研究は、800 年間にわたる勝軍地蔵信仰とその図像の歴史的展開の解明を目的とする。列島各地に膨大に現存する勝軍地蔵像についてはじめて悉皆的調査・収集を行ない、データベース化をほどこし、合わせて関連史料・文献の網羅的把握を進めた。

これにより、(1)13 世紀の勝軍地蔵信仰の生成から、(2)14 世紀の地蔵信仰・地蔵縁起の増産、(3)16 世紀の愛宕信仰の伝播、(4)18 世紀初頭の防火神としての流布、(5)近代戦争における戦勝の神としての再浮上まで、800 年間の足跡を詳細に論証し、勝軍地蔵および中世的軍神の源像には水の神の信仰があるというあらたな見通しをえた。

研究成果の概要（英文）：

This is the study into an ikusa-gami (military deity) in the middle and early-modern Japan and the related images from the perspective of historical iconography.

“Shogun jizo” is a military deity created as a consequence of the war among Shinto and Buddhist deities. Many of military governments and common people in the middle ages believed in shogun jizo in the context of the notions of nation and national land, which had considerable impact on the wars in the modern age and formation and development of nation state later on. The purpose of this study is to figure out the historical changes in the belief in shogun jizo and related images over the period of 800 years. In the course of the study, the author conducted research and collection covering all of the shogun jizos existing throughout Japan, made a database of those shogun jizos and crosschecked them with related historical sources and documents.

Based on the above, the author clarified the history of 800 years including (1) origination of the belief in shogun jizo in the 13th century, (2) expansion of the belief and creation of related stories in the 14th century, (3) dissemination of the belief in Atago gongen in the 16th century, (4) expansion of shogun jizo as the god of fire prevention and (5) re-recognition as the military deity in the wars in the modern age, and found the new view that the belief in the god of water underlies the belief in shogun jizo and in the military deity in the medieval age.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：中近世日本歴史図像学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：文化史、絵画史料論、勝軍地蔵、肖像

1. 研究開始当初の背景

列島各地に残された数十万点にもおよぶ膨大な肖像・仏神像の多くは、いまだ手つかずのまま残されており、これまでの絵画史料論の成果を受け継ぎながら、東アジアにおける肖像・仏神像の歴史図像学の方法を開拓してゆく段階を迎えている。

また、史料学の時代を迎えた歴史学研究においては、絵画を主たる対象としながらも、古文書・古記録から文学・宗教史料までの幅広い文献のほか、多様な歴史史料を積極的に利用してゆくことがもとめられている。それは、絵画史のなかに孤立することなく、それをとりまく政治・社会経済・思想・地理的状況、文化的諸問題を横断する新しい文化史研究の端緒となるであろう。

そこで、本研究では、800年間にわたる勝軍地蔵信仰とその図像の歴史的展開と、その歴史的背景にせまるために、他の多様な軍神信仰のあり方や〈王〉の肖像をめぐる諸問題までを、東アジア全体の文化的運動のなかからとらえなおすことによって、日本文化と日本人の心性の特質を浮かび上がらせてゆきたい。

それは、(1)戦争史・戦争論へ一石を投じる試みであり、(2)より巨視的で豊かな視覚史料論の可能性を切りひらくための新しい

挑戦であり、(3)新しい文化史を提起する点に特徴がある。

2. 研究の目的

本研究は、中近世日本における軍神（いさがみ）信仰とその図像をめぐる歴史図像学的研究である。なかでも、800年間にわたる勝軍地蔵信仰とその図像の歴史的展開の解明を目的とする。

13世紀に誕生した和製の地蔵菩薩＝勝軍地蔵は、日本独自の国家・国土観念を背景に、中世武家政権から庶民にまで広く信仰され、その後の近代戦争や国民国家の成立・展開にも少なからぬ影響を与えた軍神であった。

すなわち、(1)13世紀の勝軍地蔵信仰の生成から、(2)14世紀の地蔵信仰・地蔵縁起の増産、(3)16世紀の愛宕信仰の伝播、(4)18世紀初頭の防火神としての流布、(5)近代戦争における戦勝の神としての再浮上まで、800年間の足跡を詳細に論証してゆくことになる。

3. 研究の方法

本研究では、(1)研究諸機関・寺社での絵画・彫刻・石造物調査（熟覧・写真撮影など）、

(2)史料採訪（現地での聞き取り、郷土資料の収集、その他の絵画の熟覧・写真撮影な

ど)、(3) 関連史料・研究文献の収集とデータベースの作成・活用、(4) 研究著書・論文の執筆をすすめた。

全国各地に残る勝軍地蔵像は膨大な量にのぼるため、限られた時間ですべてを悉皆的に調査(熟覧・写真撮影)することはきわめて困難である。そこで(1)では、(3)の基本データにもとづいて重要な作例について優先的に調査を実施する予定である。

(2)について、(1)と連動しながら、勝軍地蔵像が偏在している地域の各都道府県・市町村の図書館・博物館にて郷土資料の収集を行ない、寺社および現地の古老からの聞き取り調査を実施して、関連情報の収集に万全を期すて行なうことになる。

また(3)では、勝軍地蔵像データベースの構築にむけて、研究文献等の検索を行なう。具体的には、①都道府県・市町村の自治体史誌や②同教育委員会の文化財調査報告書、③博物館・美術館特別展図録や報告書・紀要、④勝軍地蔵研究関連文献、⑤インターネットなどの情報を収集し、整理・集約してゆく。

4. 研究成果

現地での聞き取り、郷土資料の収集などの史料採訪と、関連史料・研究文献の収集により、勝軍地蔵データベースは、2012年3月の段階で450件をこえた。

研究諸機関・寺社での絵画・彫刻・石造物調査(熟覧・写真撮影等)は、おもに古例が集中的に残存している①島津氏関係地域(鹿児島・宮崎県 2009年度)、②長尾・前田氏関係地域(福井・石川県 2008年度)、③武田氏関係地域(山梨・長野県 2010年度)で実施した。そのほか、④矢取地蔵伝承と『矢取地蔵縁起絵巻』の舞台である滋賀県安孫子荘故地の現地調査および押立神社の古文書調査(2008~2010年度)、⑤熊本市池上地区所

蔵「池辺寺縁起絵巻」と勝軍地蔵像ほか仏像群についての調査(2009・11年度)を実施した。

さらに、毘沙門天・妙見菩薩など、同時代の同時代の日本にあった多様な軍神信仰の史料・文献の調査・収集をすすめている。

これらにより、勝軍地蔵および中世的軍神の源像には水の神の信仰があり、その背景に水の神と火の神の対立・抗争があるというあらたな見通しをえることができた。

2011年には単著『藤原鎌足、時空をかける』(吉川弘文館)を刊行したほか、勝軍地蔵信仰に関する論文や、豊臣秀次像、足利義持像といった中近世肖像関連の論文を発表した。そのほか滋賀大学経済学部附属史料館寄託『押立神社文書目録(稿)』の作成に協力した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

①黒田智・高橋傑, 水争いと矢取地蔵金沢大学学校教育学類紀要4号, 98-106, 2012年, 査読有

②黒田智, 石守寺の鎌足像, 『本郷』, 92巻, 2011年, 18-19, 査読無

③黒田智, あたらしい文化史の登音, 『民衆史研究』, 80号, 2010年, 23-34, 査読無

④黒田智, 絵画史料論と動物史一忘れられた馬の焼印をもとめて, 『歴史評論』, 715号, 2009年, 16-27, 査読無

⑤黒田智, 豊臣秀吉・妻子像を読む, 『文学』, 第10巻第5号, 2009年, 138-149, 査読有

⑥黒田智, “縁起を物語る力” アジア遊学115号, 6-11, 2008年, 査読無

〔学会発表〕（計5件）

- ①黒田智，東国の鳴動と富士山図，在米絵入り本研究会，2012年1月6日，国文学研究資料館（東京都）
- ②黒田智，まほろしの馬下，北陸史学会大会，2011年11月27日，石川県立歴史博物館
- ③黒田智，豊臣秀次と34人の妻妾たち，「絵を読む会」（『文学』2009年秋特集号準備会），2008年6月22日，於岩波書店（東京都）
- ④黒田智，とり違えられた肖像—足利義持の肖像制作と天空の地藏菩薩，鹿島美術財団研究発表会，2008年5月16日，鹿島KIビル大会議室（東京都）

〔図書〕（計1件）

- ①黒田智，藤原鎌足、中世を生きる，吉川弘文館，2011年，250頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 智 (KURODA SATOSHI)
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：70468875